

# ブンド、MLが内ゲバ

## 日比谷の新入生歓迎集会



全国共闘連合主催による新入生歓迎大会が四月二十二日午後三時より日比谷野外音楽堂で開かれ、約二〇〇〇名の学生の参加をみた。本学からも、神田、和泉、生田の三地区から約五〇名の学生(反帝戦線、学生解放戦線、反帝学評、中核、ノンセクト)が会場に結集した。

集会は、三軒塚を山進会等港交対同盟吉村一作委員長挨拶では

じまり、自衛隊内部で反帝闘争を起した小西誠前自衛隊員のメッセージが続いた。

つきに、各大学共闘の連帯挨拶に移り、最初に本学共闘を代表して、学生解放戦線の関口成一郎が登壇し、演説したことから一部学生会のヘゲモニーを握る反帝戦線(ブンド)の学生が反発し両者で激しい内ゲバを演じた。会場は騒然となったが、インターの

合唱で静かになり、集会が進行された。他大学生共闘、反戦青年委員会の四・二八沖縄闘争へ向けての闘争宣言が発せられた。そのあと、今度は本学共闘を代表して反帝戦線の横谷慶一君が演説した

ことにより、学生解放戦線の学生が反発し、再び内ゲバを演じた。両者の間に中核、反帝学評の学生が緩衝地帯を作り、ようやく集会を終了することができた。集会では

は新入生の姿をちらほら教えることができた。

これは昨年の本学のバリスト以降、明大共闘(代表反帝戦線、田原入君)、二部共闘(議長学生解放戦線本間成孝君)、全明共闘(学生解放戦線と中核派の共闘)であり、ブンドは不参加。議長関口成一君が結成され、明大共闘の代表を巡って、反帝戦線と学生解放戦線の間で争いがあり、今回

それが表面化したものである。

なお、翌二十三日には、学生解放戦線学生の約五〇名が本学和泉校舎構内に集まり、当日予定されていたブントの新入生歓迎集会に介入しようとして、竹竿で武装したが反帝戦線(ブント)の学生が姿を現わさなかったことにより、衝突が回避されるという事態がもたらされている。両者の対立は今後の本学の闘争組織と運動に少なからぬ影響を及ぼすものとみられる。